

「震災・台風災害」経験と教訓を忘れない

「1・17は忘れない地域防災訓練」「第1回養父市防災訓練」を実施



バケツリレーによる初期消火訓練を行う自主防災組織のみなさん

1月15日、青溪中学校グラウンドをメイン会場に「1・17は忘れない」地域防災訓練及び第1回養父市防災訓練が行われました。これは、阪神・淡路大震災と一昨年の台風23号災害などの被災経験と教訓を私たち一人ひとりが忘れず、今後の防災活動の充実を図るために、養父市と兵庫県但馬県民局が主催したものです。訓練には、地元自主防災組織をはじめ、学校や消防団、国土交通省、自衛隊など約850人が参加。行政と住民が一体となって災害への備えと助け合うことの大切さを確認しました。

震度6強の地震を想定

訓練は、午前9時30分に南但馬地域を中心に震度6強の地震が発生したと想定し実施されました。

間もなく、市は災害対策本部を設置し、情報収集や各団体への指示訓練を開始しました。まず、消防車等によって住民への避難勧告が行われ、地域住民や小中学校生徒らが学校体育館に避難しました。

その後、地震による火災発生を想定して、伊佐地区と宿南地区の自主防災組織のみなさんが、バケツリレーと消火器を使った初期消火訓練を行いました。



救護所で応急手当を受ける負傷者